



今後の栽培管理のポイント

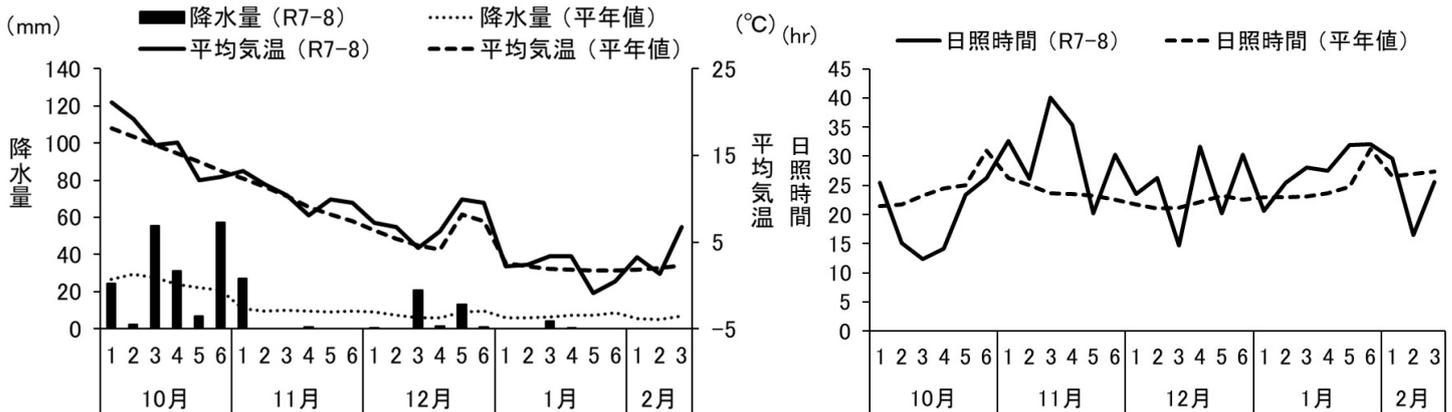
(1)排水状況の確認

(2)麦踏み

(3)追肥

(4)雑草防除

1 気象経過 (10月第1半旬～2月第3半旬 仙台アメダス)



- ・気 温：平年並か高い傾向で推移していますが、1月下旬は平年よりかなり低くなりました。
- ・降 水 量：11月以降少ない傾向で推移していますが、12月第3・5半旬は平年より多くなりました。
- ・日照時間：10月は平年より少なかったものの、11月以降は多い傾向です。また、2月は日照時間が少なく推移しています。

2 大麦生育調査結果 (令和8年2月10日現在)

表1 生育調査結果 (令和8年2月10日調査)

品種	ほ場	条間(cm)	播種日	草丈(cm)			莖数(本/m ²)			幼穂長(mm)		
				本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差
ホワイト ファイバー	大和町 落合	28.7	11月15日 (11月13日)	6.9	81.2	71.9	299.7	173.2	38.2	0.3	-0.1	-0.7
	仙台市 宮城野区	22.9	10月20日 (10月14日)	6.8	58.1	62.2	281.7	60.4	36.1	0.9	-1.0	-1.0

※平年値は3か年平均です。

<大和町 ホワイトファイバー>

- ・草丈は6.9cmと短く、莖数も299.7本/m²と前年より多かったものの、平年より少なくなりました。
- ・幼穂長は0.3mm(平年差-0.7mm)となっており、幼穂形成期には入っていません。

<仙台市 ホワイトファイバー>

- ・草丈は6.8cmと短く、莖数は281.7本/m²と、平年、前年より少なくなりました。
- ・幼穂長は0.9mm(平年差-1.0mm)で、まもなく幼穂形成期に入る見込みです。



大和町ホワイトファイバー（令和8年2月10日）



仙台市ホワイトファイバー（令和8年2月10日）

3 今後の栽培管理

(1)排水状況の確認

融雪や降雨によるほ場の停滞水を速やかに排出することが重要です。

「暗きよの再点検（閉じていないか）」「明きよの手直し」を行いましょう。

表2 湿害の影響

生育ステージ	影響
出芽後期～分けつ期	浅根、分けつの減少、葉の黄化、生育遅延
節間伸長期～出穂期	分けつの枯死、穂数の減少、穂の縮小化



○排水環境の良い例
額縁明きよとほ場内明きよが排水路につながっている。



○手直しが必要な例
ほ場内明きよが排水路とつながっていないため滞水。

(2)麦踏み

麦踏みの実施にあたっては、幼穂の長さを確認し、作業を実施できるか慎重に判断しましょう。

- ・効 果：生育や穂揃いの均一化など
- ・実施時期：茎立期前までに実施しましょう。（幼穂長 2mm 頃から茎立ち）
- ・回 数：年明け後 1～2 回（播種後から全 2～3 回）が基本です。
- ・「ホワイトファイバー」は「シュンライ」と比べてやや倒伏しやすいので、茎立ち前であれば麦踏みを実施しましょう。

⚠ 下記の状態では逆効果なので、麦踏みは実施しないようにしましょう。

- ①鳥類の食害がある ②ほ場が湿っている

(3)追肥

追肥の目的は、天候や土壌条件によって変動する生育を、目標の収量や品質に近づけることです。一般に大麦は子実のたんぱく質含有率が高くなると、加工適正が劣ります。一方、小麦は子実のたんぱく質含有率が高いことが求められます。

2月10日現在、鳥類による食害や葉の黄化が見られるほ場が見られました。品質が高い麦を収穫するために、生育状況や生育ステージを確認し、適期に追肥を行いましょう。

【株直し追肥】（※小麦では行わない）

◇大麦

- ・追肥判断：①播種時期が遅く生育量が少ない（年内の茎数が500本/m²以下）
②葉の色が薄い③鳥類による食害が多い場合に実施します。
- ・追肥時期：融雪後
- ・施用量：窒素成分1kg/10a（硫安5kg/10a）

【幼穂形成期の追肥】

- ・麦類は幼穂長が2mmを超える頃から茎立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進むため、この頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招きます。
⇒穂数を確保するため、生育ステージを確認し、追肥を行いましょう。
 - ・追肥時期：幼穂長2～3mmの時期
 - ・施用量：◇大麦→窒素成分2.0～2.5kg/10a（硫安10～12kg/10a）
◇小麦→窒素成分2.5kg/10a（硫安12kg/10a）
- ※幼穂形成期の追肥は、追肥量が多すぎると倒伏が発生しやすくなります。**株直し追肥を行った場合は、追肥量を削減しまししょう。**

【減数分裂期・穂揃期の追肥】

- ・減数分裂期追肥は1穂粒数を増やし、穂揃期追肥は千粒重や子実たんぱく質含有率を高めまます。そのため、**小麦では、品質を確保するための追肥として、減数分裂期と穂揃期の両方で追肥することが原則**となっています。
- ・**大麦では穂揃期に追肥すると品質が低下するため、追肥は減数分裂期までとします。**

表3 麦類の追肥量の目安

種別	品種	起生期（株直し）		幼穂形成期	減数分裂期	穂揃期
		起生期の葉の黄化状況	越冬後茎葉が再び生長を始める時期	幼穂長が2～3mm	幼穂長が3～5cm 止め葉の葉耳間長が±0mm 出穂10～15日前	出穂した茎が80%
大麦	シュンライ	少ない	1	2～2.5	2～2.5	—
	ミノリムギ		2			
	ホワイトファイバー	目立つ				
小麦	シラネコムギ	—	—	2.5	2.5～5	2.5
	あおばの恋					5
	夏黄金					5

※追肥量：窒素分量（kg/10a）

(4) 雑草防除

今後、気温の上昇とともに雑草の発生が目立ってくることが予想されます。雑草の発生状況に応じて適宜除草剤（茎葉処理剤）の散布を検討しましょう。

⚠ 雑草防除の注意点

- ・幼穂形成期及び茎立期（節間伸長期前）を過ぎると使用できる除草剤が少なくなるので、生育を確認して適期に使用しましょう。
- ・散布後、薬剤が乾かないうちに雨が降ると、薬剤が流れ落ちて効果が下がってしまうので、天候に注意して作業しましょう。
- ・薬剤の雑草が限られているため、優占雑草を把握し目的に合ったものを使用しましょう。

表4 麦類の使用可能な除草剤（令和8年2月4日現在）

薬剤	作物	適用雑草	10aあたり使用量 (散布液量)	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数	備考
ハーモニーDF	小麦	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	5~10g (通常散布：50~100L 少量散布：25~50L)	は種後～節間伸長期前	雑草茎葉散布 又は全面散布	1回	スズメノテッポウには、雑草5葉期までに散布。
		一年生広葉雑草	3~10g (通常散布：50~100L 少量散布：25~50L)	節間伸長期開始期～穂ばらみ期 ただし収穫45日前まで			
	大麦	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	5~10g (通常散布：50~100L 少量散布：25~50L)	は種後～節間伸長期前			
アクチノールB乳剤	麦類	一年生広葉雑草	100~200ml (70~100L)	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	雑草茎葉散布又は全面散布	2回以内	広葉雑草については、発生揃～6葉期（ヤエムグラは4葉期）までに散布。
MCPソーダ塩	麦類 (秋播)	一年生及び多年生 広葉雑草	200~300g (70~100L)	幼穂形成期 ただし収穫45日前まで	雑草茎葉散布 又は全面散布	1回	
エコパートフロアブル	小麦 (秋播)	一年生広葉雑草	50~100mL (100L)	小麦節間伸長期開始期まで (広葉雑草2~4葉期、 ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫45日前まで	雑草茎葉散布 又は全面散布	2回以内	
	大麦	一年生広葉雑草		大麦節間伸長期開始期まで (広葉雑草2~4葉期) ただし収穫45日前まで			

※最新情報で農薬登録を確認のうえ使用してください。

※農薬使用の際に飛散防止対策を講じたうえ使用してください。

○1か月予報（2月21日～3月20日 仙台管区气象台 令和8年2月19日発表）

向こう1か月(2月21日～3月20日)	暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。今年1月上旬から低気圧の影響を受けにくく、降水量の少ない状態が続いています。向こう1か月の降水量はほぼ平年並の見込みですが、これまでの少雨の状態を解消するには至らない可能性があります。
1週目(2月21日～2月27日)	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率80%です。
2週目(2月28日～3月6日)	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。
3～4週目(3月7日～3月20日)	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、ほぼ平年並の確率40%です。